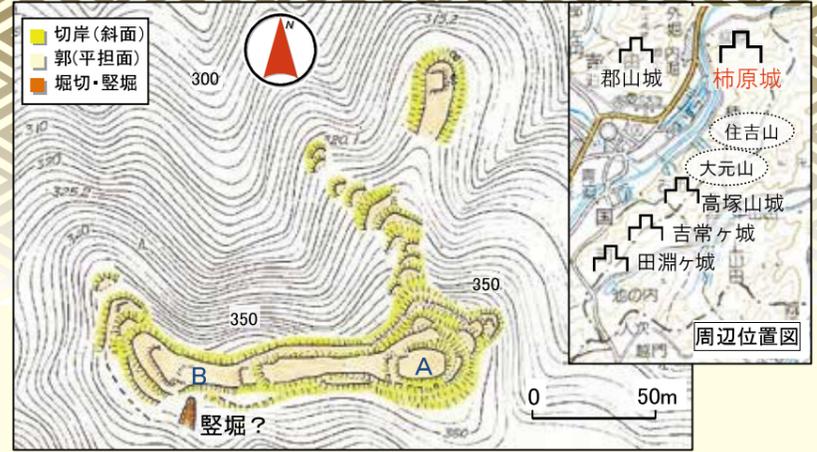


【山城ガイド】
標高/370m、比高/170m
史跡指定/未指定 城主/不明
所要時間/西山麓から35分



柿原城略測図(作図 秋本哲治)

立地：郡山から可愛川を挟んで1km余りの対岸の山上にあります。名前は柿原城ですが、北麓は柳原集落で南麓が柿原集落です。この城跡から尾根伝いに高塚山城方面へ長く続く山道(吉田町甲田町境)には遺構がなく、独立した城といえます。

歴史：江戸後期の『芸備風土記』では「柳原柿原の両城」は陶隆房の出城とされ、『芸藩通志』では「住吉山 大元山 柿原山」が陶隆房の駐屯地とあり、どちらも1540年の郡山合戦時に陶隆房が築いた陣城として伝わります。なお柳原城がどこを指すのかは不明で、住吉山には陣地の跡は見当たりません。

城跡：Aを中心に長い郭が西側に伸び、北側の急斜面には数多くの小規模な郭が連なっています。城の範囲はそれほど広くはありません。明確な堀切や土塁は確認できませんが、郭面の加工は比較的丁寧です。よって臨時的に大軍が駐屯した城のように見えません。

考察：高塚山、吉常、田淵の各城は、尼子軍の吉田から東への進出を阻むため、陶隆房率いる大内氏の援軍が尾根上に築いた陣城と思われる。一方、柿原城はこれらと離れており、また尼子軍の青山、光井山とは逆の北側を向いているため、大内軍によって築かれたものとは思えません。伝承とは異なりますが、毛利氏の出城であった可能性も考えられます。



長い平坦地が広がる郭B(東側より撮影)



柿原城遠望(北側より撮影)

先日来原小学校へ、ホットな話題に掲載の音楽宅配便の取材でお邪魔しました。
まず児童たちの「こんにちは」という挨拶に癒されました。
音楽の演奏時には、タクトを振る真似をして聴きいる児童がいたり、演奏の合間に演奏家の言われたり、休憩時には、私のおじさんにも気軽に話しかけてくれたりと、そんな姿を見て、私自身も元気をいただいていた。子どもたちのような純真な心、ここに置いてきてしまったのだろうか。(浮田)

「限りある資源を大切に」というフレーズはよく耳にしていますが、資源を大切にすることの重要性をより実感しました。日本の未来のために、まずは自分自身からやってみよう。(田村)

今月の表紙
株式会社マルシンに集められた産業廃棄物が原料の一部に使われているペンを持つ郷野小の子どもたち。子どもたちもリサイクルのすごさを実感しているようです。

今月の主な内容
2~5
エコで未来を明るく

Akitakata

人輝くまちの情報誌「広報あきたかた」

NO.125
7
2014.JUL

発行編集 安芸高田市 政策企画課 〒731-0592 広島県安芸高田市吉田町吉田791 Tel.(0826)42-5612 Fax.(0826)42-4376 http://www.akitakata.jp/



エコってすごい!